



次回のこの欄に登場するのは、あなたかも？
身近なニュース、まちの話題などをお知らせください
☎情報政策課広報係 ☎22-1411 (内線431)



▲担当地域を表した市内の地図

具体的な作業を担当した組合の
宮総当理事 北川重則さん(左)と一圓さん▶



「彦根が、安心して住めるまちになるように」

彦根市管工設備工事協同組合理事長 一圓 億夫さん(小泉町)

大地震などの災害時には、電気、ガスなどとともに水道の復旧が急がれます。私たち彦根市管工設備工事協同組合では、災害時の対応フロー図を作成し、速やかに復旧活動が行えるような体制を整えました。

私たちの組合には、市内の水道工事関係33社が加入しています。平成10年には、市と災害時の応急復旧作業について協定を結びました。今回は、より具体的に、緊急時の連絡先の一覧表や、各社の担当地域を表した地図を作製したものです。

水道管の復旧作業には、資材や重機が不可欠です。しかし、災害時には、橋が壊れて川を渡れない可能性を考慮し、芹川、犬上川、宇曾川で地域

を分け、区域内に重機や資材を持つ社がその地域を担当することにしました。また、連絡先も、各社の事務所ではなく、重機の管理者の携帯電話としました。

こうしたことを決めようという声は、組合員の中から自発的に起こってきました。組合員が総じて積極的だったのは、阪神淡路大震災の被災地へ復旧活動の応援に行ったとき、多くの人が何よりもいち早い水道の復旧を待ち望んでいる姿を目のあたりにした経験のせいかもしれません。

災害は起こらないことが一番ですが、起こったときに被災者の期待にこたえられるよう、努力していきたいと思えます。

「交通弱者にも使いやすい道や駅になってほしい」

中川 重男さん(稲枝町)



彦根の道や駅などは、障害者やお年寄りなどの交通弱者にとって使いやすいものになっていくでしょうか。10月18日は彦根駅周辺、24日は南彦根駅周辺を、約50人が三つのグループに分かれ、駅から公共施設などへのルート歩いて調査しました。参加したのは、視覚や聴覚に障害のある人、車いす生活者、高齢者などです。私は、日常生活のなかで車いすを使っています。車いす生活者の視点でまちを見ると、急なスロープや、不要な段差が気になります。また、視覚に障害のある人といっしょに歩いてみると、歩道にある街路樹や電柱が危険なものに思われました。特に、南彦根駅周辺には点字ブ

ロックもなく、ストレスを感じると思います。道を作るときに、自動車のことばかり考えても、障害のある人や高齢者のことはあまり考えられていないように感じました。お金をかけなくても、自動車優先などの発想を改めることで直せることもあるのではないのでしょうか。

彦根市は、「彦根市交通バリアフリー基本構想」を策定するために、協議会を設置して議論を続けています。今回の調査も、その議論に反映されます。来年1月ごろには基本構想の案が公表され、広く市民から意見を募る予定だそうです。たくさんの方がこのことに関心を持って、意見を寄せてくれるようお願いしています。

中川さん▶

▼調査のようす

